



魅力だより



12月に入り、いよいよ2学期末を迎えました。

各学校では、2学期の意識調査を実施し、結果に基づいて見積もり値とのずれを確認しながら、これまでの取組を振り返ったり、3学期の取組に向けて改善策を話し合ったりしている時期だと思えます。

各学年の集大成であり、次の学年への準備の時期となる3学期が、子供たちが自己有用感を高め、それを基盤に自己肯定感を高められるような学期になるといいですね。

11月30日から12月1日の2日間、「こどもの発達を支える生徒指導に関する調査研究事業」に取り組む他地域への先進地視察として、愛知県岡崎市立甲山中学校を訪問しました。

今回は、視察で得た情報を紹介します。参考にしていただけるとありがたいです。

岡崎市全体で行われている特徴的な取組のうち、2つを紹介します。

①「**チーム学習**」の推進 → 各教科学習、各活動を4人組を基本とした「チーム」を単位にして進める。チームは、教師が「心理的安全性」を基本にしながら、教科や活動の本質・内容等を踏まえて意図的に編成し、「学び合い」や「助け合い」の場を常に設けている。

②校内フリースクール「**F組**」の設置(中学校)

→教室に入ることができない等、配慮を必要とする生徒のための教室。教室復帰のための一時的な居場所ではなく、1つの学級として位置付けられている。一人一人の状況や思いに寄り添い、登校時間や1日の学習・活動内容は、自分で考えて計画を立てる。

1 「チーム学習」の推進と先生方の姿勢

先生方の姿勢をこのように感じました。
生徒を「**見守る**」、生徒と「**向き合う**」
生徒と生徒、生徒と学びを「**つなぐ**」

2年・音楽科



日常の様子を音楽で表現する創作の学習。チームで話し合って決めた「起・承・転・結」のそれぞれの音楽をつなげて、中間発表する授業。

(生徒指導の視点①②③④)

3年・家庭科



手縫いでマスコットを制作する学習。作業をしながら、教え合ったり、助け合ったりする様子が見られ、自然に協動的な学びが行われている。

(生徒指導の視点①②③④)

全ての学年、教科で「チーム学習」が標準化されており、どの授業でも自然な学び合いが展開されました。

生徒と向き合う先生方の表情はとても明るく、温かい雰囲気の中で、生徒と共に楽しく授業をつくっているという印象を受けました。

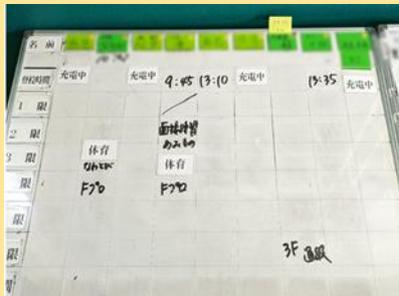
2 子供の思いを尊重する「F組」の理念を基盤にする

「F組」の取組は、全国でも最先端の取組で、大変参考になりました。今、本県内の学校においても、不登校児童生徒のみならず、集団での生活に課題を抱える児童生徒の居場所として、「校内教育支援センター」、「別室」等の支援の充実が必要となっています。F組の取組をいくつか紹介しますので、各学校で参考にしてください。



リラックススペース

ソファ、楽器、ラケット等を常備
(生徒指導の視点①)



1日の学習計画(時間割)

心身の状況に合わせて自分で決める。(生徒指導の視点①③)



作品の展示

丁寧に作られた素晴らしい作品
(生徒指導の視点①②③)

「F組」の設置の理念や運営、生徒への支援の理念等を基盤として、通常の学級での取組が展開されています。やはり、「発達支持的生徒指導」の理解と実践が大切です。これは、県内の各学校でも意識できることですね。

3 良好な学校風土を(国研 高橋総括研究官の講話より)

「児童生徒が学校への愛着や帰属意識を育てている学校は、児童生徒の学力や社会性、感情面の発達等に肯定的な影響を及ぼす」という研究結果もあることから、子供が「学校とのつながり」を感じ、学校が子供にとって「魅力ある学校」であることの意義は大変大きいと考えます。

高橋総括研究官より、以下のようなお話を伺いました。ぜひ、校内研修等で取り上げてください。

子供が「学校とのつながり」を変化させるために、教職員の努力や意識の注力に変化可能な3つの要因

①思いやりのある大人との関係 →学校にいる大人たちに「思いやり」を感じていること

②高い期待 →差別されずに、公平に高い期待をかけられていると感じること

③学校の諸活動への有意義な参加(参画) →学校の様々な活動に関与する機会が与えられ、諸活動に影響を及ぼすと感じていること

改めて、「発達支持的生徒指導」と「魅力ある学校づくり」の関連について確認し、4つの視点に基づいた生徒指導を学校生活のあらゆる場面で行うことが大切であると感じました。

甲山中学校の生徒は、「学校とのつながり」を感じる日々を送っているのだろうと思いました。

4 不明な点、疑問があれば、いつでも連絡してください!

各学校では、取組を進める中で、不明なことや疑問に思うことが出てくることと思います。ちょっとしたことで、どうぞお気軽にお尋ねください。(市町村教育委員会、各学校からでも大丈夫です。)

【連絡先】高校教育課学校教育生徒指導班